

令和6年度第2回千葉県立中央博物館リニューアル基本計画検討懇談会 議事録

- 1 日 時 令和6年10月16日（水）午前10時～正午
- 2 会 場 都道府県会館14階 千葉県東京事務所
- 3 出席者 委員 林座長、阿児委員、稲庭委員、亀田委員、栗原委員、駒見委員、瀬能委員
染川委員（オンライン参加）
千葉県庁環境生活部 板倉スポーツ・文化局長、石島文化振興課長、
立和名副技監兼学芸振興室長、小野主幹、村田副主幹、
水野副主査、宮川副主査
現代産業科学館 尾崎館長（オンライン参加）
関宿城博物館 糸原館長（オンライン参加）
中央博物館 稲村館長、田中副館長、小田島副館長、島立事業部長

4 内 容

●議 題

- (1) 令和6年度千葉県立中央博物館リニューアル基本計画検討懇談会の進め方
- (2) 千葉県立中央博物館実施計画原案について
- (3) 千葉県立中央博物館施設整備計画原案について

5 議 事

【説 明 1】令和6年度千葉県立中央博物館リニューアル基本計画検討懇談会の進め方
(立和名室長)

【特に意見なし】

【説 明 2】中央博物館実施計画原案について (稲村館長)

【瀬能委員】

スケジュールにおける、報告書とは論文等を示すのか、年報のような事業報告的なものを示すのか、どちらか。前回は指摘したところだが、論文等を想定しているのであれば、報告が出る前に展示等で情報を公開するというのは自然史系の分野にはなじまないのでは、順番が違うのではないか。

【島立部長】

新たな知見は報告書ではなく、論文投稿を想定している。報告書は大まかな研究報告。

【瀬能委員】

人文系では展示解説書が重要視されていることは承知しているが、自然史系では先に研究論文として出す必要がある。報告書が概略的のものであるなら、事業報告書（年報）にまとめればよく、スケジュールに書く必要はないのではないか。スケジュールに「報告書」と書くことで誤解が生じる。

【島立部長】

人文系でも論文を書くこともある。スケジュールの書き方については検討する。

【瀬能委員】

評価指標について、アウトプットが多いように見える。5ページや7ページ、9ページの実施数や取組数となっている個所はアウトカムの視点で参加者数とすべきではないか。

11ページ①の指標は、トップページのアクセス数ではなく、コンテンツごとのアクセス数が大事だと思う。11ページ②の指標は、外のシステムだとアクセス数はわからないと思うので、各システムへのレコード提供点数にした方がよい。13ページの資料登録件数は一番大事な指標だが、内容もわかるとよい。ある地域、あるいは分類群ごとの多様性が資料でどれだけ把握できるかといったコレクション多様度や網羅率が必要では。他にも人文系であれば重要文化財、自然史系であればタイプ標本といった貴重な資料の点数も重要な指標ではないか。

17ページの重点事業以外の事業の評価について、調査・研究では千葉県を扱うものだけが評価される形になっているが、大きな博物館だからこそ、少なくとも、地域を扱うもの、国レベルのもの、国際的なものの3つに分けるべき。収集・保管では、累積の資料点数が目標値になっているが、これまでの分野毎の年間収集数をベースに年度毎の数値を目標とした方がいい。マスコミや研究者等による資料の利用数も重要な項目として追加すべき。展示・教育普及の指標は普及プログラムのものしかないが、常設展示の入館者数や、県民からの信頼度を図る指標であるレファレンスサービスの人数も重要な項目として追加されるべき。また、学術著作だけでなく、普及著作も重要な評価項目として追加されるべき。

【稲村館長】

指標は基本的にアウトカムがよいということか。

【瀬能委員】

そのとおり。アウトプットとアウトカムが混ざっている状態では御都合主義的に見える。評価の際に、何を重視するのかを最初に明確しておいた方がよい。その方が評価する側としてもわかりやすいと思う。

【稲村館長】

書き方も含めて検討する。指摘のあった項目については、その数値がとれるかどうかも加味して検討する。

【栗原委員】

評価は誰が行うのか。評価委員を設けるとということか。

【稲村館長】

現在、どのように評価を行っていくか検討中のため、3回目会議でお諮りしたい。

【立和名室長】

県立博物館の在り方検討が始まる前の平成後半までは評価委員会があって、外部評価を行っていた。その際は、各事業の内部評価を行った上で、代表的な事業の外部評価を行うという形だった。他館の例を見ても評価のやり方は色々あるようなので、今後どのように評価

を行っていくのがよいか検討しているところ。

【栗原委員】

通常は、まずは内部で評価したうえで、外部に評価してもらおう。

【板倉局長】

第3者による評価の実施は検討している。

【林座長】

内部で実施するものは評価ではなく、点検。それを基に外部の方において評価してもらうべき。評価は外部が行うもの。

【亀田委員】

総合的な目標の1つが入館者数になっているが、オンライン利用した人も含めた利用者数にしてはどうか。今後はオンラインでも発信していくことを考えると、来館しなくても博物館のサービスを利用する人が増えていく。入館者数とオンライン利用者数を組み入れて利用者とする、デジタルの部分も評価できてよいと思う。

他の評価も外向きにわかりやすいものや数値を取りやすいものになっているので妥当だとは思いますが、コレクションポリシーや研究ポリシーといった基本となる大事なものをまずはきちんと作っていくことも目標にいて、館の姿勢を評価指標に加えてもよいと思う。

本館入館者数を14万人まで増やすのは大変ではないか。この数値の根拠は何か。

【林座長】

分館海の博物館の入館者数目標がほとんど現状値と変わらず、本館とアンバランス。どうなっているのか。

【稲村館長】

コロナ前の入館者数を基準としている。利用者数にすることも検討していきたい。

【林座長】

来館してモノを見ることは非常に大事。オンラインも大事だが、ウェブサイトを開いただけでは見たことにはならず、一定の時間見ないと意味がない。どのような人をオンライン来館者とするのか基準を決める必要がある。来館者とオンライン来館者は分けた方がよい。

【栗原委員】

亀田委員の意見に賛成。国立科学博物館はキャパオーバーであり、来館者も関東県内に絞られるので、オンライン発信も大事にしている。そういう指標をいれてほしい。中央博物館も千葉市周辺の利用者が多いと思うので、他の地域からきてもらうにはどうすればいいのか、各地域からきてもらうことを目標にしてもよいかもわからない。

【駒見委員】

4年後ならリニューアルも進んでいると思うが、コロナ前の入館者数を目指すということとは原状回復のためのリニューアルのように見える。それは違うのではないか。

【稲村館長】

4年後では施設のリニューアルまでは辿りつかないと思われる。10年後はもう少し上げていきたいが、最初の4年間ではコロナ前に戻したいと考えている。

【瀬能委員】

曖昧な数値を根拠とするのはよくない。マーケティング調査を依頼するのも1つの手段だと思う。神奈川県立生命の星・地球博物館では、オープン前にどのくらい入るのかを業者に依頼して出した。

【稲村館長】

参考にして、検討していきたい。

【阿児委員】

利用者の姿が見えない。例えば、東京国立博物館は子供が少ないので、小さい頃に日本文化に触れてほしいという部分に着目して次の事業をたてたりするということになる。来館してほしい人の姿がないと、事業を進めるのが大変になる。利用者像があって、それが自己点検の成果としてどのように出てくるのかが評価として入った方がいい。

【稲村館長】

利用者全体の裾野を広げたい。特定せず、様々な人に利用してほしいと思っている。

【阿児委員】

全体が見えるような数や利用者数の属性が捉えられるようにしてほしい。

【稲庭委員】

これまで実質的に排除されてきた方がどういう方かを調査し、アクセシビリティを作るための対策を打たなければ裾野は広がっていかない。展示・教育普及だけではなく、全体の運営の問題だと思うが、18ページの運営の部分には多様な来館者にどのように来てもらうために何をすることが具体的に書かれていない。2022年のICOMの定義の改定や日本の博物館法改正、障害者差別解消法、孤独・孤立対策推進法、認知症基本法といった近年定められたアクセシビリティに関する法律等が多くある。事業形態によらず対応していくことが求められている。ひろがりをもった利用者像が描けるよう、記述を追加すべき。

【稲村館長】

誰でも利用できる といったことがわかるよう検討していきたい。

【阿児委員】

評価にあたって、評価項目の数値を獲得するためだけに業務が増えることがないように気を付けて考えていくべき。また、後からこのような数値が欲しかったというようなことがないように、よく考えて項目を設定した方がよい。

【稲村館長】

まだ確立されたものがないので、これから基準を確立していきたい。

【栗原委員】

6 ページ③について。IT 大国のエストニアの国立博物館では、全てのキャプションがデジタル化していた。入館券をもらう際に言語を選べるようになっている。紙のパネル自体がもう古いので、資金がないと難しいが、このようなことも視野にいれておく必要がある。

今年度から博物館学研究グループができたと思うが、運営のところに博物館学のことがないのが気になった。

【説明 3】千葉県立中央博物館施設整備計画原案について（立和名室長）

【瀬能委員】

5 ページでは展示と教育普及が分かれていて、6 ページでは1つになっているので、表記を合わせるべき。3つの基本事業という観点から、展示・教育普及で1つにした方がよい。また、6 ページには運営が入っているので、5 ページにも追加した方がよい。ただし、運営とは3つの基本事業を円滑に進めるためのものなので、それらと並列ではなく、全体をくくる位置（図では緑の太枠上）に位置付ける必要がある。

【立和名室長】

展示と教育普及を別事業として分けたつもりはなかったが、表現がよくなかった。5 ページの表記を修正し、展示・教育普及を1つにし、運営を加える。

【瀬能委員】

6 ページの3つの基本事業それぞれに要綱（ポリシーや方針、目的達成のための体制などの明文化）が必要である。それがないと具体的に何か始めようとしたときにや人によって方針がぶれてしまう。

【立和名室長】

基本事業のポリシーの策定については、実施計画で行っていくが、どのようにやっていくかという最初の考え方はなにかしらの方法で追加していきたい。

【瀬能委員】

スペースの確保について、各分野にどう配分するのも明確になっている必要がある。7 ページの必要諸室は、収集・保管、調査・研究の整理が甘い。図書は資料の一部なので、収集・保管に入るべき。調査・研究で重要なのは執務スペースではないか。項目を見直してほしい。また、調査・研究で再掲されているものは収集・保管に入るべきものなので、再掲は不要で、むしろ備品を入れるべき。

【亀田委員】

6 ページの調査・研究部分に赤字がない。7 ページをみても調査・研究部分はどうに整備していくのかが見えない。「おもしろい」を発見していくために何が必要か、機器の老朽化や薬品管理の整備など実際に必要なことを書いた方がよい。

【立和名室長】

館と十分に議論して、次回お示ししたい。

【阿児委員】

9 ページにサーバー室とあるが、サーバーをおかず、クラウドにおく方法や遠隔地におくという手段もある。データのバックアップをどうとるかによる。中央博が各施設のデータ集約先となってデータバックアップ拠点となるのであれば、施設として設定するのもありだと思うが、県全体の方針を踏まえながらデータの運用方法も含めて柔軟に検討した方がよい。

【小田島副館長】

現在は博物館自体の資料データベースはクラウドに、作業データ等は館内 LAN の共有サーバーに保管している。館の共有サーバーと機器の保管場所という二つの意味でサーバー室と書いていた。御指摘を踏まえ、検討していきたい。

【亀田委員】

9 ページについて、休憩室や救護室のほかに、特別支援学校が来た時に横になれるスペースや大型のストレッチャーを使った来館者が休憩するスペースなどがあると見学に使ってもらいやすくなる。多様な人に利用してもらうためにはどのようなスペースが必要かをもう少し入れ込んだ方がいい。ユニバーサルデザインをどうするかは福祉関係の専門家に直接現場を見てもらい、意見を聞くとよい。

【稲庭委員】

クワイエットルームやカームルームと言われるものは救護室とは別に作るのが海外では主流になってきている。発達障害の方が休憩する場所、イスラムの方がお祈りする場所、胃ろうの方が食事をする場所などをこの部屋で兼ねることが増えてきている。

東京オリンピック・パラリンピックや大阪万博に対して、アクセシビリティのガイドラインが施設とイベントや展示等で全て公開されているので、それを参照するといい。

【立和名室長】

運用に必要な諸室については、抜け落ちがでないよう専門家の意見も伺いながら進めていきたい。

【亀田委員】

温湿度管理がどの部屋においても大事。年月がたつと空調は老朽化して不具合がでる。新しくする際にどのような設備を整えるかをよく考えた方がよい。耐用年数もあるので、途中で更新していくことを念頭に計画を作らないといけない。このあたりも加えてほしい。

【瀬能委員】

全館空調は絶対にやめた方がいい。小回りが利く設計にするべき。

【稲村館長】

空調はかなり老朽化しているのが現状。

【立和名室長】

御指摘の点を踏まえ、今後本庁内の施設整備の部署とも検討を進めていきたい。

【駒見委員】

8ページの展示で体験的な展示や見える収蔵庫を検討することなどが書かれているが、これが13ページの展示構成のどこに入ってくるのかがわかるようになるとよいと思う。

同じく8ページにレストランが入っているが、現在のレストランは閉鎖されている。これからの検討だと思うが、本当に現実的なのかは考えた方がよい。

現在、施設が老朽化していて、電気がかさず使えない展示室があるようだが、見せ方を工夫できないか。施設を変えていくのは大変だと思うが、それを逆手にとった不便でも楽しめる工夫はできると思う。コメント1つで楽しさが変わると思うので、博物館学の部署もあるのだから、検討してほしい。こういった工夫が次の未来の博物館につながっていくと思う。

【稲村館長】

検討してまいりたい。

【栗原委員】

講堂、研修室などとあるが、最低でも200人は入れるキャパシティは必要。国際会議をやる場合はレセプションもやるので、ある程度展示空間と切り離されて飲食できる場所を確保してほしい。

執務室についてだが、展示は素晴らしいが執務室が狭くてしかたない博物館もある。職員のウェルビーイングを考えて作ってほしい。

ショップについては、観光客向けのお土産売り場になってしまうようなことなく、MUSEUMのショップということ意識してほしい。

【立和名室長】

現中央博物館の講堂も200人くらいは入ることができる。かつては同時通訳ブースなどもあった。現中央博物館のよいところを有効に使いながらリニューアルしていきたい。

【稲庭委員】

利用者サービスについて、受付周りが重要であると考え。受付がワンストップで様々な来館者に対応できる設計が必要。

職員の執務環境について、オンラインでの作業が増えているので、音が遮断できて、チームでオンライン会議ができる場所、個人でオンライン会議ができる場所は考えておく必要がある。

【立和名室長】

検討してまいりたい。

【会議終了後】

【瀬能委員】

評価指標の数はあまり多くしない方がいい。指標を沢山設定して、その評価に追われてしまうのは本末転倒。基本計画は3本柱に沿っているのだから、それぞれに少数の重要な評価項目を設定し、シンプル・アウトカム・客観性に基づき適正に評価するのがよい。